

出雲駐屯地創立63周年記念行事

市中パレード



出雲駐屯地(司令 安河内2佐)は本年で12回目となった「出雲駐屯地創立63周年記念行事・市中パレード」を11月20日、出雲市今市町のくにびき中央通りにおいて、人員約130名、車両約40両、航空機3機の陣容をもって行った。

当日、衆議院議員竹下巨匠、出雲大社宮司千家尊祐氏をはじめ、部内外から多数の来賓を迎え、盛大に記念行事を祝った。

行事に先立ち式典会場において、第13音楽隊(隊長 加藤2尉 海田市)による野外演奏が行われ、中でも出雲市出身の歌手竹内まりやさんが、作詞作曲した「愛しきわが出雲」を同音楽隊の光永3曹が熱唱し、観衆を大いに魅了した。

その後、観閲部隊が威風堂々と出雲市駅前四つ角広場式典会場に入場し、式典が開始された。駐屯地司令は式辞の中で「自衛隊に対する呉民・市民の期待は益々高まっており、我々は関係自治体等との連携を更に強化し、如何なる事態が発生しても、迅速に、的確に対応することが要求されている。

これまで同様、即応態勢を維持するとともに、国家・国民

のために、自らの危険を顧みず、命をかけて任務を遂行するといふ、崇高な使命感を基に、日々、妥協のない訓練に励み、その実力を養っていくことが重要である。」旨を述べた。

市中パレードは、島根県旗・出雲市旗の行進で幕を開け、観閲部隊指揮官の第13偵察隊副隊長新谷3佐の行進に続き第132地区警務隊(海田市)が行進した。

その後、出雲駐屯地所在部隊が各部隊ごとに行進を行い、また支援部隊である第8普通科連隊(米子)、第17普通科連隊(山口)、第13特科隊、第13高射特科中隊(日本原)が堂々の行進を披露した。

続く観閲飛行部隊は第13飛行隊(防府)のOH-16、UH-1I及び航空自衛隊美保基地所属のYS-11が上空を飛行した。市中パレードは約250人の歓声に迎えられるとともに、カメラのシャッター音が鳴り響くなど、市民の関心の大きさが伺えた。

パレード終了後は出雲市役所において、第13音楽隊の演奏、パレードに参加した車両等の装備品及び災害派遣活動の写真パネルを展示し、多くの家族連れ等で賑わった。



発行所 島根県隊友会
編集協力 出雲駐屯地 広報室
印刷所 (有)福岡秀文堂



感謝状贈呈

平素より、出雲駐屯地に対し多大なるご貢献を賜りました方々に対し、駐屯地司令より感謝状を贈呈させていただきました。

☆一般功労

出雲駐屯地委託歯科医師

藤江 徹氏

出雲駐屯地を知る会監事

板倉 広明氏

☆援護功労

合銀ビジネスサービス株式会社社長

木佐 知正氏



▲木佐 知正氏



▲板倉 広明氏

守りたい人がいる

地域に根ざす 出雲駐屯地

記念行事 フォトスナップ集



▲早朝より観閲台を準備する隊員



▲熱唱する光永 3 曹



▲入場行進する隊員



▲式辞を述べる駐屯地司令



▲式典を裏方で支えた隊員達
(左: 司会を務めた施設隊安宅 1 士
右: 交通統制を実施した偵察隊板垣 1 曹)



▲祝辞を頂いたご来賓 (左: 長岡秀人氏 右: 竹下亘氏)



▲島根県旗・出雲市旗



▲国旗入場
(旗手: 偵察隊江隅 1 曹)



▲施設隊の行進



▲警務隊の行進



▲観閲部隊指揮官 (偵察隊新谷 3 佐)



▲偵察隊の行進



▲偵察直接支援小隊の行進



▲第 1 直接支援隊の行進



▲支援部隊の行進 (右より第 8 普通科連隊、第 17 普通科連隊、第 13 特科隊、第 13 高射特科中隊)



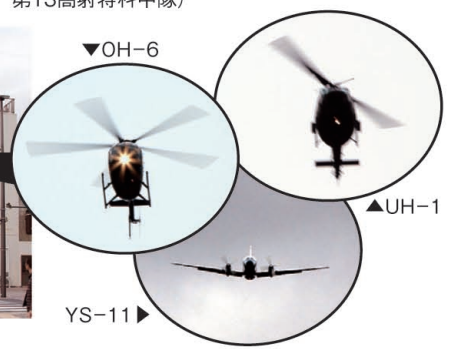
▲装備品展示会場にて



▲沿道で日の丸を振る観衆



▲航空機の観閲飛行



守りたい人がいる

第13偵察隊訓練検閲受閲

第13偵察隊(隊長 安河内2佐)は、平成28年10月13日よりあいち野演習場(滋賀県)において「旅団の攻撃における偵察隊の行動」を検閲課題として訓練検閲を受閲した。

旅団の隊容検査において、旅団長から「偵察を徹底して実施せよ、基礎動作を徹底せよ、安全管理を徹底せよ」旨の訓示を受け、隊は「生き残り情報をつなげ」を合言葉に全隊員が一丸となり15日には、敵増強機械化大隊の防衛要領について全容を解明、旅団に意見提出するとともに逐次第2期の態勢に移行し、実働検閲が終了した。

17日、18日には、小銃及びRCVの戦闘射撃による実射検閲が実施され、非常に高い射撃練度である事が確認され、「おおむね優良」の評価を獲得した。



▲統裁官(第13旅団長)へ編成完結報告する偵察隊長

全隊員は、現状に満足することなく引き続き、精強第13偵察隊を目指すことを誓った。



▲偵察警戒車による射撃



▲拠点へ前進する斥候班



◀旧隊舎
▼完成した新庁舎外観



新本部庁舎には第13偵察隊の他、出雲駐屯地業務隊、第356会計隊出雲派遣隊等が入り11月中旬より運用を始めている。

新庁舎は、鉄筋コンクリート3階建てであり、隊員同士の情報共有が円滑にできるように、従来の庁舎よりも各部屋は広いスペースとなっており、1階には医務室も集約されている。また、体の不自由な人も利用しやすいように段差のないフロアにするなどの配慮もなされている。

出雲駐屯地は10月2日、島根県隊友会会長持田氏、出雲駐屯地を知る会会長高橋氏を始め多数の来賓に御臨席頂き、新本部庁舎の完成落成式を盛大に行った。落成式では駐屯地司令が「住民の安心・安全のよりどころとして、出雲駐屯地の歴史を刻んでいきたい。」とあいさつし、テープカットが行われた後、参加者に各部屋の説明を行った。老朽化や耐震の問題から建て替えが決まり、昨年夏

から工事が始まり今年9月に完成した。



▲テープカットする司令と来賓

新本部庁舎完成

陸上自衛隊

地域に根ざす 出雲駐屯地

陸上自衛隊

出雲全日本大学選抜駅伝競走支援



▲出雲大社前をスタートした選手たち

今年も出雲路に秋本番を告げる「第28回出雲全日本大学選抜駅伝競走」通称「出雲駅伝」が体育の日の10月10日開催され、出雲駐屯地は通信支援を実施した。

大学3大駅伝の一つとして、すっかり定着し、駅伝シーズンの幕開けとなる同大会支援も恒例となり今年で28回目となった。

支援隊は広報室長（玉木1尉）以下20名で編成され、各中継所手前500mから1kmに携帯無線機を担いだ隊員を配置し、力走する選手、チーム名を中継所に通報し、同大会の円滑な運営に大きく貢献した。

当日は気温20℃、晴れで最高のコンディションの中、出雲大社正面大鳥居前から風光明媚な出雲路をゴールの出雲ドーム



▲通過する選手情報を報告する支援隊員

までの6区間45.1kmのコースで21チームが参加し健脚を競った。

レースは序盤、日本体育大学がトップを走り、3区では東海大学スーパールキー關（せき）選手が青山学院を23秒差に引き離すも、4区青山の茂木選手が11秒差に追い上げ、5区で青山学院と東海大学がデットヒート、2秒差でアンカー対決となったが今年度「3冠」を狙う、青山学院大学が2年連続3度目の優勝を果たした。

また、大会を支援した隊員も大学生アスリートたちの健闘を間近で見ることにより、それぞれ何か刺激を受けたよう、今後の訓練に生かしたいと語っていた。

祝 定年退官

永年の勤務お疲れ様でした。

業務隊

陸曹長 田部 範生

帰任先…出雲市武志町



施設隊

陸曹長 神田 和秀

帰任先…出雲市佐田町



12月定年退官予定者

偵察隊 陸曹長

錦織 修二

業務隊

准陸尉 秦 修

1月定年退官予定者

1直支隊

陸曹長 山本 康夫